

ややこしい  
ややこしい

～シェフと  
コック～

芳田尚哉

## シェフとコック

---

チン！ チン！

甲高いベルの音に呼ばれて、ウェイターがやって来た。

「いかがされましたか？」

ウェイターは丁寧に対応する。

「シェフを呼べ」

男は端的に言った。

「シェフでございますか」

「そうだ、シェフを呼べ」

「申し訳ございませんが、当店のシェフは、本日お休みを戴いておりましたので不在でございます」

ウェイターは厨房のメンバーを思い浮かべて答える。

「はあ？ なに言っとんねん。料理作っとるもんが休みって、どういうこっちゃ。ほんだらこれ、誰が作ったんや？ まさかレトルトとかレンチンか？」

男は目の前の皿を指す。

「当店のコックでございます」

「はあ？ お前、客をからかっとんのか」

「滅相ありません」

「からかっとるやないけ。わしはシェフを呼べ言うたやろ。さっさと、これ作ったもんを呼べばええんや」

「シェフはお休みですので……」

「せやから、客をからかっとんのかって」

「コックでよろしいでしょうか」

「ええから早よ呼べって」

「かしこまりました」

ウェイターは頭を下げ厨房に向かった。

「――ってな事があったんや」

男はカウンターで熱燗を呑みながら、隣の席の少し若い男に話していた。

「それは兄さんが悪いでっせ」

話を聞いていた男は、苦笑しながら言った。

「なんでや」

自分が正しいと信じきっていた男は、意外な反応に戸惑いを隠せない。

「そのウェイターさんは、別におかしな事は言うてまへんで。ちょっと生真面目っていうか、頭は固いけどな」

「どういうこっちゃ？」

男は首を傾げる。

「あんな、兄さん。シェフいうんは、厨房で働く責任者や。言ってまえば料理長や。んで、コックは料理人やねん」

「一緒やないか。ようはシェフやろ。料理作っとるやんけ」

「話聞いてました？ シェフは料理長やて言いましたやろ。コックさんは平の料理人やねん。まあ、料理人全般の時もあるみたいやけどな」

「なにを言うとりんや？」

若い男は、やれやれとため息を吐いてもう一度説明する。

「せやから、兄さんは料理長を呼べ言うたんですわ。せやけど、料理長は休みやったんです。せやから、ウェイターは休みでない言うてたんですわ。やのに、兄さんはなんべんも料理長を呼べ呼べと、あほみたいに言うてたんですわ。その日は平の料理人が調理しとったんですわ」

男は疑問符を浮かべる。

「すまん。お前がなに言うてんのかわからへん」

「なんべんも言わせんといってください。せやから料理長は休みで、平しかおらへんかったんですって。せやから、シェフはおらへんです」

「なんや、ようわからんけど、ややこしいな」

「もう、ええかげんに理解してくれへんかな……」

若い男はため息を吐いて、冷やを一気にあおった。

F i n o .

ややこしいややこしい～シェフとコック～

<http://p.booklog.jp/book/110251>

著者：芳田尚哉

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/studiosaix/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/110251>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト